

## 2008春闘 青・婦・家中央総行動に参加

3月4日、東京にて2008 青年・婦人・家族中央総行動が開催された。全国から多くの仲間が参加し、JR採用事件の早期解決や春闘勝利に向けて決起した。西日本青年部から12名が参加し、新加入者が決意を語るなど積極的に発言し行動を盛り上げた。



### 宣伝行動と座り込み



早朝、霞ヶ関に集合した青年婦人家族は、闘争団と連帯しJR採用差別事件の早期解決を求め駅頭宣伝と座り込みを行った。

朝の通勤がピークの霞ヶ関駅前では、「JR採用差別事件の早期解決にご理解、ご協力をお願いします」と訴えながらピウを手渡した。

その後、東京地裁前で闘争団とともに座り込みを行い、青空ではあるが三月初旬の東京はまだ肌寒く身体の冷えに耐えながら「3月13日の鉄道運輸機構訴訟の公正な判決」を訴えた。



### 本部情勢報告



午後から場所を大崎・南部労政会館に移し、国労本部 濱中書記長が情勢報告を行った。「1047名の問題は世間が過去の問題だといった感があったが、何とかもう一度この問題の解決の声を広めるため11.30大集会など4者4団体の枠組みで行動し政治解決をめざし努力している。青年婦人家族も1047名問題の解決に全力を尽くしていただければありがたい」と語った。

### 講義「多様な働き方、労働組合の必要性」



学習会は全労協 中岡事務局長が「多様な働き方、労働組合の必要性」と題して行い、「多様な働き方とは政府や経団連が使ってきた言葉で新自由主義の流れのなかで生まれてきた働かされ方であり、非正規雇用者が増え続けているのが現状で、さまざまな問題が発生している」とし、「名ばかり管理職、偽装請負などの問題が発生しているが労働組合に団結し闘うことによって権利は守られる」と語った。

## 全体交流

全体交流では、新しく加入した仲間が加入した時の思いと決意を語った。「国労の人は生き生きして見えた」「内から殻を破って正直に生きたい」「入社時の時、国労の人は本社前で『組合加入は自由です。あなたの意思で選んでください』と言っていたのが印象に残っている」「少しずつ組織拡大などをやっていきたい」などの発言に会場から大きな拍手が沸いた。



## 要請行動報告

厚生労働省への要請行動報告で要請団は「要請書を手渡し、各代表が一言思いを話した」。厚労省は「省として出来る限りのことはしてきた」と答え、これに対し「これからやることのあるのではないかと訴えた」とした。

鉄道運輸機構への要請行動報告で要請団は「問題解決が必要だとの思いを訴えた」。これに対し運輸機構側は「高裁判決を聞いてから考えたい」と答え、「判決の内容を見極めたい意向を主張していた」とした。

## 集約



岩元 事務局長(本部青年部長)が集約を行い「会社はもの言う者を切り捨て、儲かることだけをする。正・契約・子会社社員全体の労働条件を改善するため団結し、壁をなくそう。外に向けて声を発信していこう」と春闘勝利に向けての決意を語った。

## あとがき

今回、闘争団と共にJR不採用事件の解決を訴えながら感じたことは、問題解決には多くの賛同者が必要であり、この問題をあまり知らない青年世代の理解も重要である。青年部として、この間感じてきた解決の必要性を青年の視点でわかりやすく彼らに訴えることが、解決に動く大きな力になると思った。

職場では新入社員の組合加入に際して、「複数ある労働組合の違いを知り、自らの意思で選んで加入した者はほとんどいない」状況であり、自らの選択で勇気を持って国労に加入してきた者に対して不当な行為などで圧力をかけ、組合運動をする者に対しては不当な配転などを行う会社の体質は続いている状況である。

学習会で言っていたが、まさに「団結して闘うことにより権利を守っていく」ことが必要である。

**青婦家中央総行動の参加に多くの皆様にカンパを頂き支援していただいたことに感謝いたします。**

# ありがとうございました

